

レンタルプライベートクラウド
ゲスト OS インストールガイド
(V1.4 第3版)

A.T.WORKS,Inc.
2014年10月15日

目次

対応 OS (動作確認済み OS)	3
virtio ドライバについて.....	3
Linux サーバのインストール	4
windows のインストール.....	7
Windows 7 のインストール手順.....	8
OS 固有の注意事項	14

対応 OS（動作確認済み OS）

Linux

CentOS 6.0 以降

Debian 6.0

Ubuntu 12.04LTS

CentOS 5.3 以降（動作確認中）

Windows

Windows Server 2008

Windows Server 2008 R2

Windows 2012

Windows 7

Windows 8（動作確認中）

Windows 8.1（動作確認中）

Windows 2012 R2（動作確認中）

virtio ドライバについて

レンタルプライベートクラウドが採用しているハイパーバイザである KVM では、ゲスト OS を virtio を有効（準仮想化ドライバ有効）と virtio を無効（完全仮想化）にて稼働することができます。

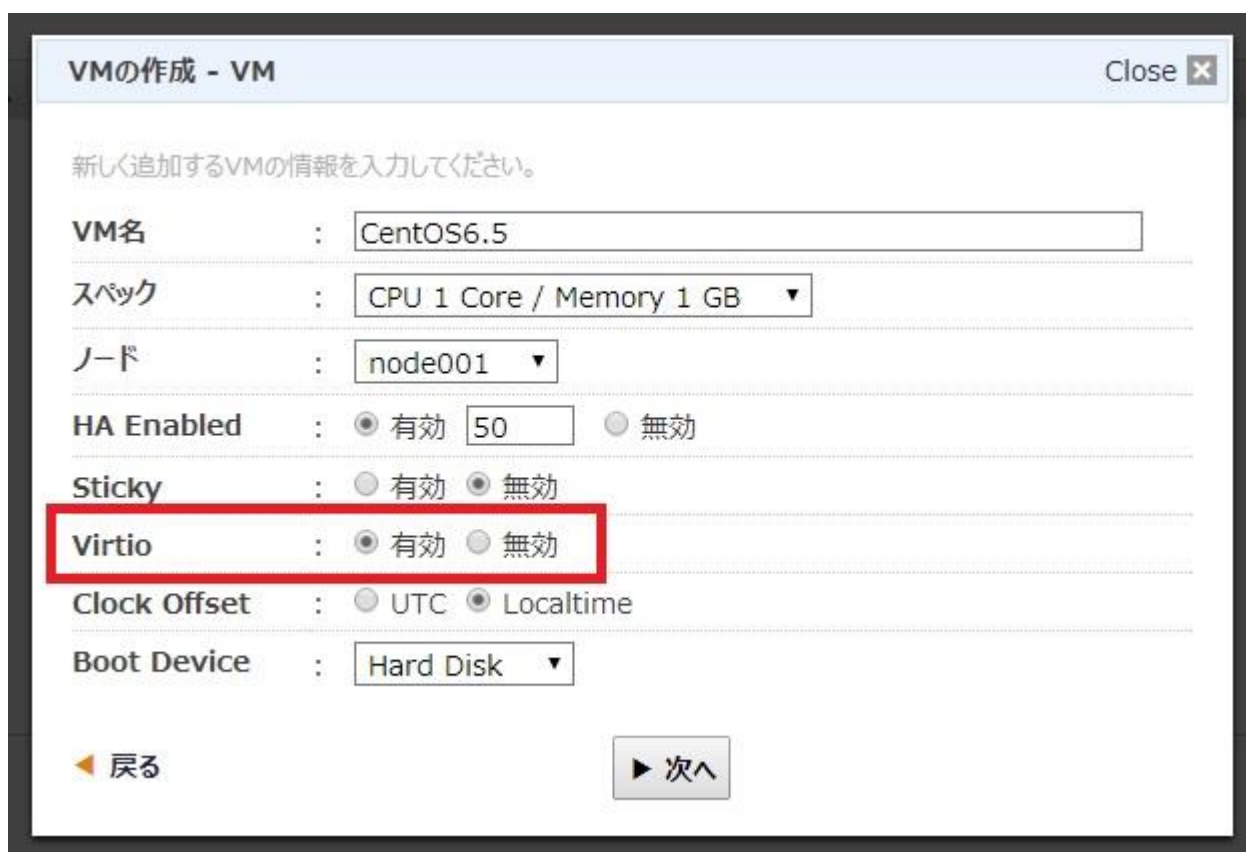
virtio を無効にした仮想サーバはディスクやネットワークのパフォーマンスが劣るため、レンタルプライベートクラウドでは virtio を有効にした状態で仮想サーバを稼働することを推奨します。

Linux サーバのインストール

レンタルプライベートクラウドが対応している Linux サーバは、kernel 標準で virtio ドライバを組み込みますので virtio フラグを有効にした状態でインストールしていただくことで virtio が有効な仮想サーバをインストール可能です。

CentOS6.5 のインストール手順

1. CentOS6.5 のインストール ISO イメージは標準でレンタルプライベートクラウドにインポート済みのためこのイメージを使用します。
2. GUI 上にて CentOS6.5 用の仮想サーバを作成してください。
このとき virtio オプションを有効にして作成してください。



VMの作成 - VM Close X

新しく追加するVMの情報を入力してください。

VM名 : CentOS6.5

スペック : CPU 1 Core / Memory 1 GB ▼

ノード : node001 ▼

HA Enabled : 有効 50 無効

Sticky : 有効 無効

Virtio : 有効 無効

Clock Offset : UTC Localtime

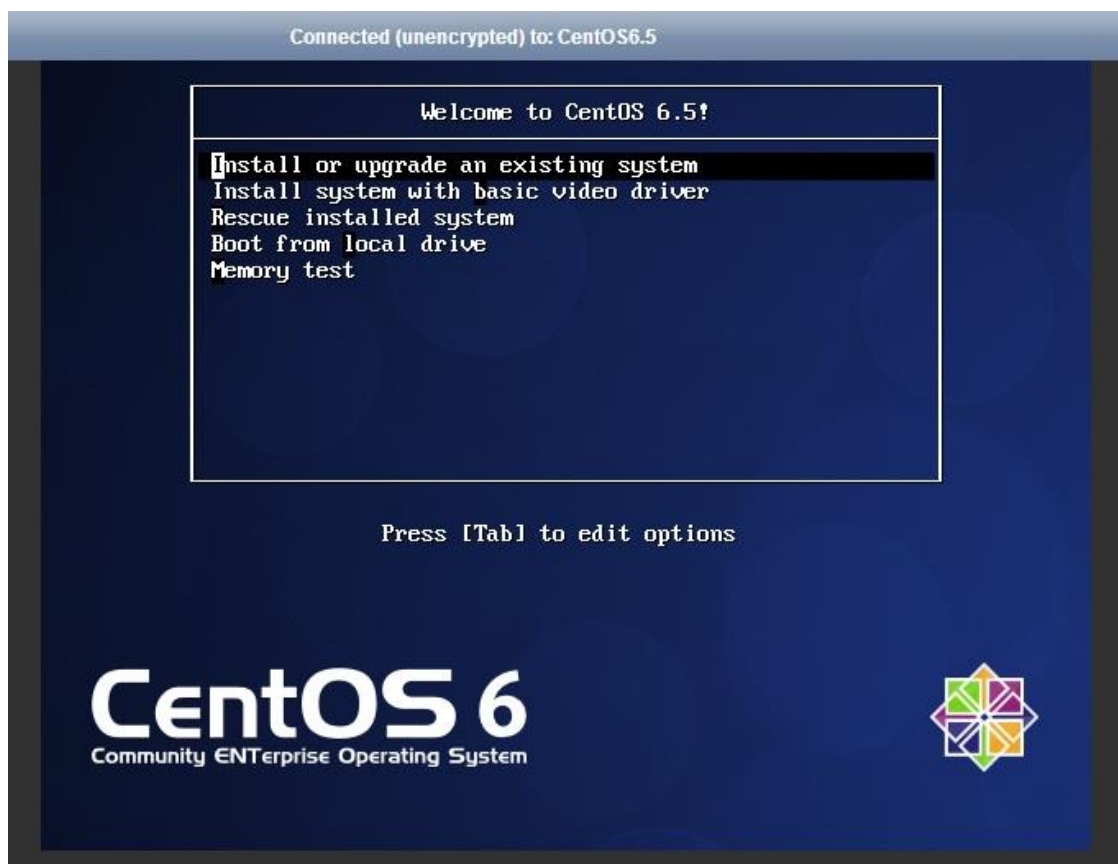
Boot Device : Hard Disk ▼

◀ 戻る ▶ 次へ

3. ディスクを指定するページでは CentOS6.5 の ISO イメージを指定してください。



4. 仮想サーバ作成後、仮想サーバを起動してください。
「コンソール」を表示させ、CentOS6.5 のインストーラに従って進めてください。



windows のインストール

virtio が有効な Windows サーバをインストールする場合、インストール途中に virtio ドライバをインストールする必要があります。

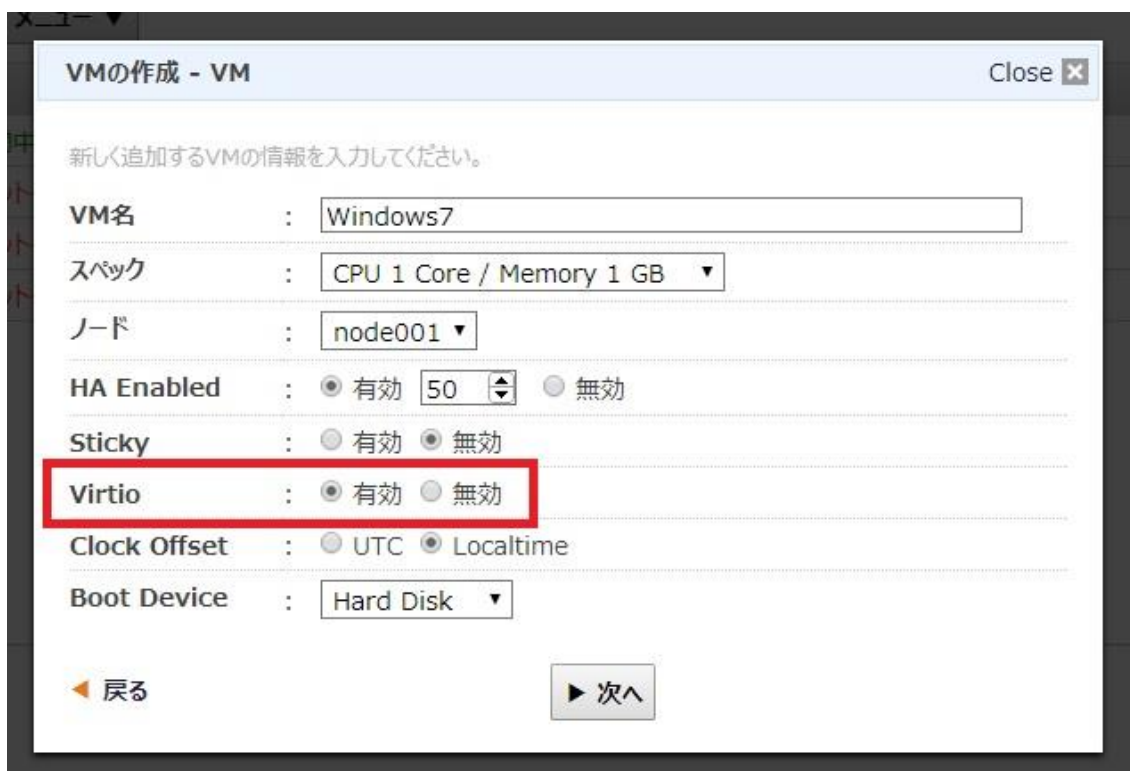
virtio ドライバの ISO イメージは下記 URL から取得することができます。

<http://alt.fedoraproject.org/pub/alt/virtio-win/stable/>

virtio-win-0.1-81.iso (2014/10/15 現在最新バージョン)

Windows 7 のインストール手順

1. Windows7 のインストール ISO イメージと virtio ドライバの安定版 ISO イメージを CD インポート機能にてインポートします。
2. レンタルプライベートクラウド GUI 上にて windows7 用の仮想サーバを作成する。
このとき virtio オプションを有効にして作成してください。



The screenshot shows a window titled "VMの作成 - VM" with a "Close" button in the top right corner. Below the title bar, there is a prompt: "新しく追加するVMの情報を入力してください。". The form contains the following fields and options:

- VM名 : Windows7
- スペック : CPU 1 Core / Memory 1 GB
- ノード : node001
- HA Enabled : 有効 (50) 無効
- Sticky : 有効 無効
- Virtio : 有効 無効** (This row is highlighted with a red box)
- Clock Offset : UTC Localtime
- Boot Device : Hard Disk

At the bottom, there are two buttons: "戻る" (Back) and "次へ" (Next).

3. 仮想サーバ作成後、仮想サーバを起動して windows7 のインストーラに従って進めてください。

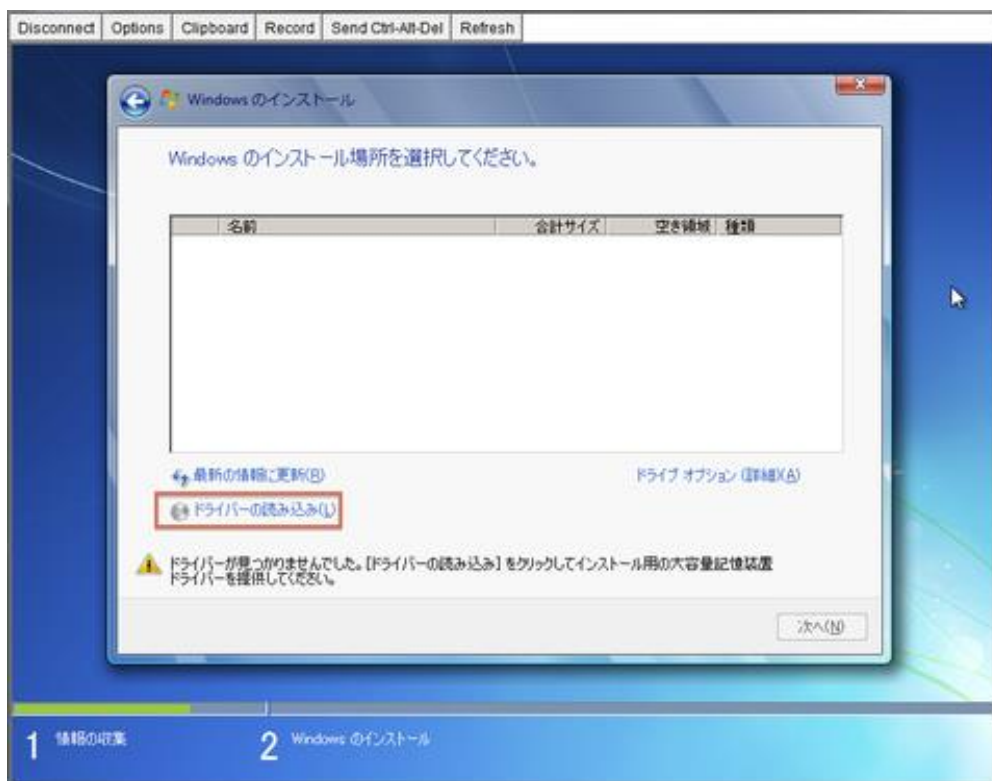
4. 「インストール場所の選択」まで進んだら、なにもディスクが表示されません。
そのためレンタルプライベートクラウド GUI にて「CD/DVD 編集」を選択します。



CD を「virtio-0.1-52.iso」(virtio ドライバ CD) に入れ替えます。



5. 再び「インストール場所の選択」画面にて、「ドライバの読み込み」を実行します。

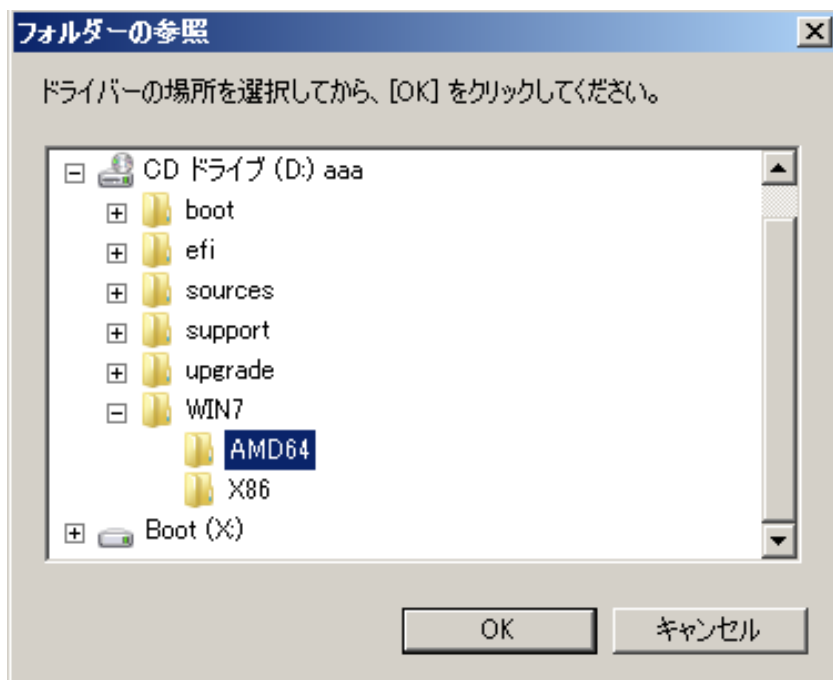


6. フォルダ参照画面にて

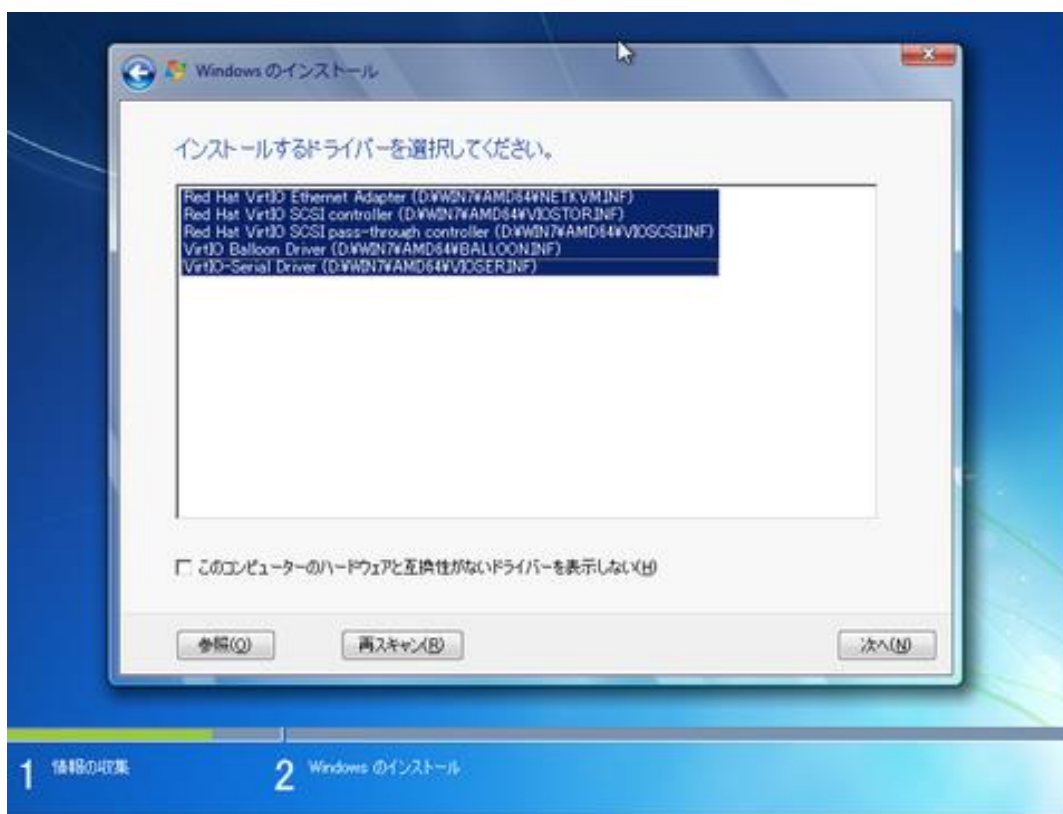
Windows7 32bit の場合 ¥Win7¥x86

Windows7 64bit の場合 ¥Win7¥AMD64

を選択します。



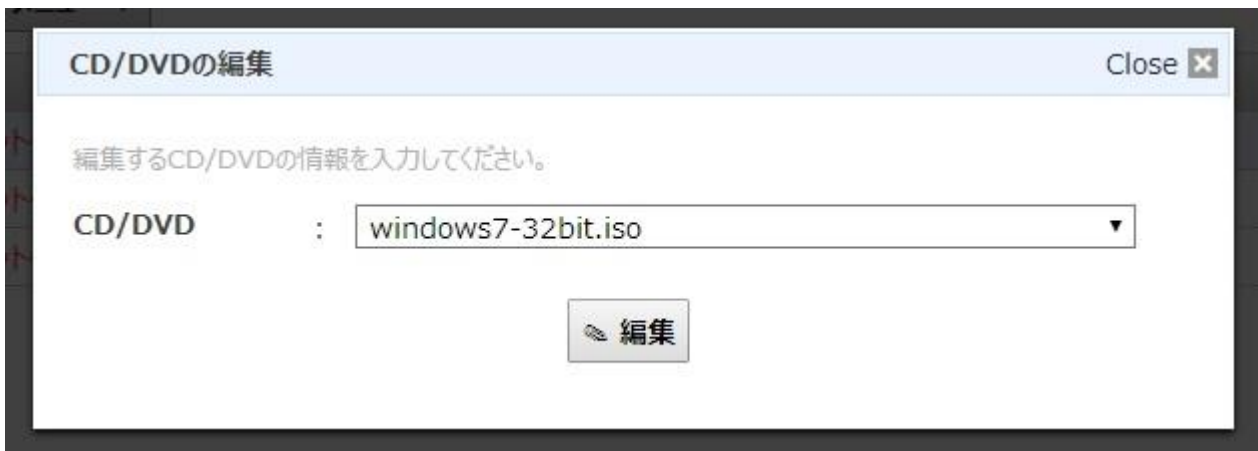
7. 表示されたドライバを全て選択して「次へ」をクリックします。



8. ディスクが表示されますのでインストール先を選択します。



ただし、このままでは「次へ」が表示されないため、レンタルプライベートクラウド GUI にて再び「CD/DVD 編集」を行いインストーラにもどします。



これで「次へ」をクリックすることができます。



9. これ以降は、通常通り Windows7 のインストールを進めます。



OS 固有の注意事項

- CentOS6 系

CentOS6 系の仮想サーバを複製した場合、複製前の NIC デバイス情報を保持してしまうため NIC デバイス情報 (eth0 など) が表示されない場合があります。

その場合、下記コマンドを実施し再起動することで NIC デバイス情報をクリアすることができます。

```
# rm /etc/udev/rules.d/70-persistent-net.rules
```